



## 心理検査 結果報告書

氏 名：〇〇 〇〇

検査年月日：20●●年●月●日

生年月日：20××年×月×日

検査種別：WISC-IV

生活年齢：●歳〇カ月

検査者：

所要時間：●時間〇分

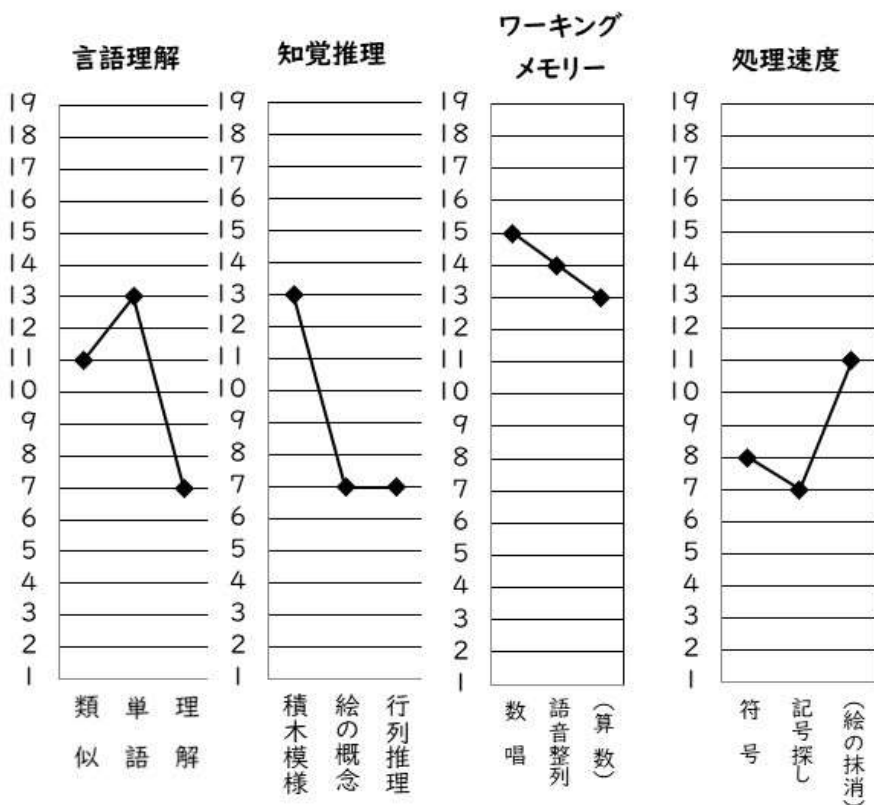
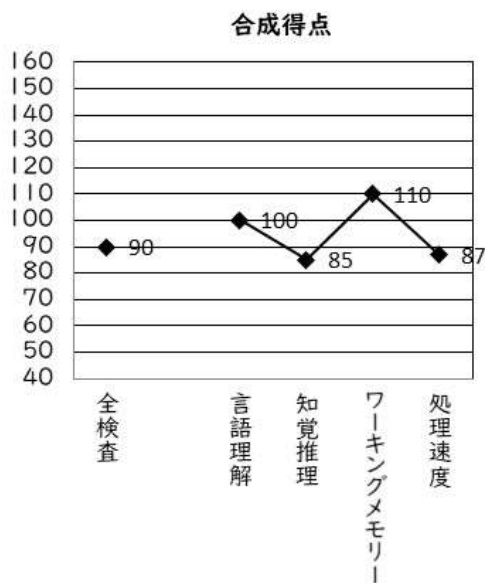
実施機関：LITALICO ジュニア

### 【検査時の様子】

初対面時の挨拶	スムーズに挨拶を返すことができていました。
部屋への移動	声かけですぐに応じることができていました。
自己紹介や質問への対応	テンポ良く、応じていました。
表情	最初から穏やかな表情で笑顔も見られていました。
課題への取り組み	視覚刺激に注意が向いてしまい、話し始める場面が見られました。検査者が数回注意を向けると、やるべきことに取り組むことができていました。
難しい課題への対応	最初はアイコンタクトで分からないことを伝えていました。検査者が「分からない問題があったら教えてね」と伝えると、小さな声で「分からない」と言っていました。その後の問題に対しては、考えた上で自ら分からないことを伝えていました。
姿勢の維持	最初は崩れることなく座っていたものの、時間の経過に伴いゴソゴソと動くことが多くなっていました。

【検査結果】

	合成得点 平均=100	パーセンタイル 順位	信頼区間 (90%)	記述分類
全検査 IQ	90	32	85~95	平均の下~平均
言語理解指標	100	50	95~105	平均
知覚推理指標	85	18	80~90	平均の下~平均
ワーキングメモリー指標	110	87	105~115	平均~平均の上
処理速度指標	87	24	80~96	平均の下~平均



## 【総合所見】

### ◆全体的な知的発達水準

全検査 IQ90(85~105)であり、全体的な知的発達水準は「平均」の範囲に位置していると推察されます。

### ◆認知面、処理プロセスなどの特徴

#### ○聴覚情報の短期記録が得意

ワーキングメモリー指標と、他の3つの指標との間に大きな得点差が見られています。耳から聞いた情報を、短時間覚えておくこと、聞いたことを覚えておきながら作業することは得意であると考えられます。

#### ○視覚情報の処理において、見本の再現は得意だが、抽象的な理解やパターンの予測が苦手

知覚推理指標を構成する課題において、得点差が見られています。積木を用いて見本と同じ模様を作る「積木模様」の得点が高くなっています。見本を見ながら考えることで、高いスキルを発揮できると考えられます。一方、視覚情報をもとに抽象的な内容を把握することや、次の展開を予測することは苦手であると考えられます。

#### ○語彙力に比べて説明に苦手さが見られる

言語理解指標を構成する課題において、得点差が見られています。単語の共通点を説明する「類似」や、単語の意味を答える「単語」は、年齢相応の力を有していると考えられます。一方、問題解決の方法や社会的ルールの説明が求められる「理解」は、同年齢の平均を下回っています。語彙を説明として活用することには、苦手さが見られると考えられます。

## 【対応の方法と内容】

#### ○実際の場面の対応の仕方を説明し、状況や感情の理解を促す

視覚的な情報から抽象的な情報を把握する力の弱さが見られているため、暗黙の了解などの言葉で説明される機会が少なく、見て判断することが求められる場面の状況理解の困難さが生じやすくなると推察されます。状況説明をする際は、本人の様子を見ながら実際の場面での対応の仕方を言葉で説明して、状況や感情の理解を促していくことが大切です。

#### ○集中すべき時間は、刺激を減らす環境設定を行う

検査場面では、視覚刺激に注意が向いてしまい、話し始める場面が見られました。検査者が数回注意を向けるとやるべきことに取り組むことができなくなりました。宿題をする時間など集中して取り組むことが必要な時間には、玩具や本など本人が興味のあるものは見えないような場所に片づけることが大切となります。また、勉強をする場所は固定して、そこを「勉強する場所」として空間を区切り、そこには勉強道具以外を置かないようにするのも大切です。何も貼ってなく、壁際に物を置いていない壁があるのであれば、そちらを向いて取り組める場所を勉強場所とすることもよいと考えられます。

#### ○気持ちや考えの言語化を促す

検査結果より、日常的な問題の解決方法を説明する力は、年齢の平均の7割程度と考えられ、本人も説明することに対して苦手意識を感じている可能性が考えられます。また、気持ちが昂る場面においては、より自己表現が難しくなることが推察されます。本人の気持ちに共感しながら、具体的な質問をして言葉を引きだしたり、本人だけでは言語化が難しい場合は大人が言語化してあげたりして、気持ちや考えを「分かってもらえた」「言ってもよかった」という経験を積み重ねていけるとよいと考えられます。

### ○気持ちを切り替える方法を練習する

親御様のお話より、気持ちの切り替えが苦手とのことでした。上記の特徴から、場面に合わせて適切な行動を選択したり、自分の気持ちを表現したりすることに苦手さを有していると推察されます。例えば、「イライラしたら深呼吸をする」「その場から離れる」など事前に気持ちを切り替える方法を決めてから課題に参加する、回数や時間を決めてから課題に取り組むなど、本人とも相談しながら繰り返し試し、対処法を身につけていくことが望まれます。あまり好ましくないような行動が見られた場合には、具体的な行動を示して、その場で実際に本人にもしてもらうことを繰り返しながら、より適切な社会的行動を身につけていけるとよいと考えられます。

### ○本人に合った学習方法を工夫する

親御様のお話より、マイペースで、活動の取り組みができる時とできない時があるとのことでした。上記の特徴より、指示内容の理解・記憶や状況の理解に苦手さが見られ、「何がどのくらい続くのか」見通しが立てづらいと考えられます。一方で、一度経験したり、本人の中で腑に落ちたりすると、見通しが立ち取り組みやすくなると考えられます。

まずは本人が難しいと感じた時に、適切な援助要請ができるよう促していく必要があります。また、本人の興味関心のあることと勉強の内容を紐づけたり、勉強をした後に本人にとって嬉しい関わりをしたり（ゲームの時間が増える、お菓子が食べられる、シールがたまると）、取り組むハードルを下げ、少しでも取り組めたら次のステップにすすむといった方法だと、成功体験が積みやすくなると考えられます。「頑張った結果、最後までできた」という成功体験を積めるとよいと考えられます。